（二十一日夕刊）

休刊　大祭日　第一、第三日曜

定價　一部二錢郵税五錢　一ケ月六十錢　十五錢

廣告料　壹行六十錢　指定廿錢

印刷人兼出版人　臨沼館輔

發行所　聲城新聞社　電話五六四番

福島縣平町田町十六番地

戲曲　長唄師匠の死（一幕）（二）

平町　高野牧夫

正男（一寸周囲に注意して――絶えられない様に）利子さん（手を握って）今日帰に公園の方へ是非にお談ひしたいのですがお付合下さいませんか！少しお話もあるのですが――

利子（無言でやさしく握られた手を取らうとする）

正男　――ね！いゝでせう　たつた二人丈けで静かな夜の公園の新緑や池畔の漫歩は何んなに僕の幸福だが知れないと始中考へて居たのです（利子の手を左に持ち替へて右の手で肩を抱くゆすり乍ら）貴女！何うして何も云つて呉れないのですか？（嘆願するように）ね。何うぞ一皆に散歩して下さい。勝手かも知れませんが僕は一人で苦むで来たのです。長い間僕は愉快にはられなかつたのです。（昂奮して）貴女を見る以前の僕は少くとも幸福を感じることが出来る男なのでしたが生きぇと言ふ事實がね――錯覚した話に聞ゐるでせうが何んな些細な苦しみでもめつぽう大きな悲にも自身それを打ち消す丈けの愉快さと創り出すことが出来た男なのでした。それを云ふのも心に落付かぬ為なのです。

（此處まで話して来て彼は自身の情熱に駆かれたもの

（歌）

明日……舊四月新月
吉凶……暦二月四暦二日

▲一白　熱心が認められる外の邊より助けらるべし　南が長が吉▲二黒　温和質直なれば人の心感ず▲三碧　驕りの為失せられば人自づから遠ざかる日千と乾と丁が吉▲四緑　躍せず奇功を求めず自然の幸　樂しべー壬と巳が吉▲五黄　目上の者に疎まれ　尻むけられぬ様に氣を揃へ　巳が長が吉▲六白　禍は遠くにあらず近く手元に在　進むは凶巽と北とじんが吉▲七赤　戸迷ふて取るべきものも投出すことある日巽と長とじん吉▲八白　扁ぬき日蕨遊か第一に知る坤と巳が吉▲九紫　生き生きしたる市　働き甲斐ある日乾　甲と巳が吉

講談

幕末奇談　高山彦九郎

（141）　中西洋々作　市施長春畫

同志と語る（八）

々餉のときが迫って来たとき、彦九郎の部屋の障子をあけて入って来たのは、例の助六でした。

「旦那さま、お食事の支度がとゝのひました故、どうぞこちらへお越し下さいまし」

彦九郎が座につくのをまいて

「長らく野にひきこもり申しました。勤王の思ひは人に負けぬ心、現時の世態にあきたらぬものでござる」

「おゝ、お見上げ申したお言葉」彦九郎は盃をとりあげて

「失禮ぢやが、盃参らせう　辱ぇ」かうして二人はまたゝく間に舊知の如きしたしさに落入ってしまひました

語るところは、一として勤王正義に依らないものはなく、町人それの助兵衛、助六の親子もいつしかその熱情に魅せられて了ひました。

「時に貴殿の同志と申すものはムるかな」互ひの身の上にまで話が来たとき彦九郎はかういってたづねました。

「それは、とんだ手數をかけて相済まぬ噺」

「いゝね、とんだことがございます」助六は恐縮さに頭をかいて

「ときに旦那さま、最前お話申し上げました唐崎さまも、御一座していかゞくトうにお願ひいたしましたが、お許し下さいますでせうか」

「たゝ、かまひませんとも」

「有りがたうございます」

助六は叮嚀に辞儀をして「では、御案内申し上げます。どうぞこちらへお越し下さいませ」かういってみちびく助六に案内せられたのは、十二疊敷程の座敷でした

朱塗の膳に、山海の珍味食膳をもつて、一人の客、それが唐崎氏と思はるゝ武士が、すでに席について居りました

「如何にも　拙者志を同じ　たゝ左様でムるか」彦九郎は同じ心のものときけばいとゝ歓ぶ色ありありとうかしく、叮嚀に礼をしつつ

「これは始めて御意を得る拙者は野新田の産　高山彦九郎正之、何卒、御見知り置きされい」

「たゝ、これは申しをくれ申した一唐崎と云はるゝ武士、叮嚀にこれに應じ」

「拙者こそ播州大久保の住人、唐崎常陸介名は正俊御貴殿の御高名はつとに存じより申した。以後よろしく、御指導下されい」

「御挨拶痛みいる」二人の間には一沫の共通した思ひが流れました

「承れば、勤王の御志あつさ方なさうな」

「如何にも」常陸介はたひかぶせるように、大きく頷

「如何にも　拙者志を同じ　うするものにも氣骨あるも　地は同じ心のものときけばのゝ歓ぶ色ありありとうかしく、叮嚀に礼をし

「ほゝお、さようか、しか　の変りのもの」

「たゝ如何にも承知いたし

「それは、とんだ手數をかけて相済まぬ噺」

「いゝね、とんだことがございます」助六は恐縮さに頭をかいて

「ときに旦那さま、最前お話申し上げました唐崎さまも、御一座していかゞくトうにお願ひいたしましたが、お許し下さいますでせうか」

「たゝ、かまひませんとも」

「有りがたうございます」

助六は叮嚀に辞儀をして「では、御案内申し上げます。どうぞこちらへお越し下さいませ」かういってみちびく助六に案内せられたのは、十二疊敷程の座敷でした

朱塗の膳に、山海の珍味食膳をもつて、一人の客、それが唐崎氏と思はるゝ武士が、すでに席について居りました

「拙者こそ播州大久保の住人、唐崎常陸介名は正俊御貴殿の御高名はつとに存じより申した。以後よろしく、御指導下されい」

「御挨拶痛みいる」二人の間には一沫の共通した思ひが流れました

「承れば、勤王の御志あつさ方なさうな」

「如何にも」常陸介はたひかぶせるように、大きく頷

「如何にも　拙者志を同じ　うするものにも氣骨あるも　地は同じ心のものときけばのゝ歓ぶ色ありありとうかしく、叮嚀に礼をし

「ほゝお、さようか、しか　の変りのもの」

「たゝ如何にも承知いたし

夜診

松村胃腸病科　淋病　婦人病　皮膚病　内科　外科　産科　耳鼻科　院

（平南町電話一〇七番）

療間

平町紺屋町　吉田眼科病院

募集。看護婦（資格者）

専門　内科一般

内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン

平町南町六一五

川井内科診療所

電話七二二番

督學士　川井重之
女醫　川井安子

目種業營

内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達他
請負

佐藤材木店

常磐線平町新川町
電話三三五番

内科、小兒科
花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町
電話五〇七番

入院應需

婦人病には美神丸を

とんな徴候の人は

一時早治療すべし

●血帯下赤帯下コシケ多き人
●下腹痛く節張り又はつる人
●子宮冷込、腰脚の冷ゑ又は痛れる人
●月經不順月經時に腹ゞ痛む人
●神經衰弱ヒステリーの人
●月經時の前後、白粘つたこしけが多る人
●子宮痲毒尿意頻　人
●子宮痒く糜爛出血する人
●局部悪臭のゆき人
●逆上、頭痛、耳鳴、眩暈する人
●肩ゞ凝又は背が痛む人
●流産、早生する人

美神丸の主治効能

白帯下　子宮内膜炎　子宮痲病（滑泡）子宮出血　子宮痙攣　子宮糜爛　月經不順　陰門悪臭　子宮下ゞ及ゆがみ　肉腫痲毒に起因する不姙症（愉よきを知らぬ病）

一日藥價僅か五錢の自宅療法

救世の婦人藥　美神丸は（安價、簡便、卓効、秘密の一四つ揃つた理想藥です）

定價表
一週分　四〇
二週分　八〇
五週分　一、八〇
十週分　三、五〇

平町五丁目角
地方代理店　山野邊藥局

一町一村に一特約店を募集す
速刻希望者は申込あれ

宮内省御用達

上田ヒゲタ醤油

醸造元　飯子醤油株式會社
平町田町
特約店　廣瀬支店
電話五四番

童話　リンチ事件後日譚

早川爲壽

むかしむかしそのむかしの田村の里といふ處に一頭の親牛と兄弟の仔牛が住んで居りました。兄の仔牛はそろ亂暴な意地悪屋で誰にも寄りつかさわると苛めるので、みんなで嫌がられて居りました。或日のこと、兄の仔牛は山の奥から迷って来た六匹の子猿を見つけ前の兇暴性を發揮して散々に殴り飛ばしピイ〜泣かして大へん痛快がりました

か酷い目に逢った子猿達は「憶えゝ（おろ）」とばかりに無念の歯ぎしりをし乍ら樫の葉の茂った山奥に姿を消しました。

◇

それから一年程經つた晩春の或日のこと、弟の子牛は近所の友達と一しょに樫狩に出かけて行きました。

ヒラ〜と散る樫の花びらに金色の夕陽のキラ〜とは映ねて何とも言へぬ美しい

眺めなのでうつとりと邊り景色に眺め入ってゐますとどこからともなく六匹の子猿がめい〜石のやうな起げんこを振り上げて弟の仔牛に打ってかゝって来ました。そしてとう〜弟の仔牛は叩き殺して了へました。

◇

暫くしてこれを知った親牛は大さう驚き悲しみ、モウ〜と大聲で泣き喚き乍ら世間の同情を陵らうとしました。そればかりでなく、俺の可愛い息子を殺したから猟の警察に訴へて酷い目に逢はしてやる」と凄い剣幕で中繼ぬ（何げなく）利子の側へよつて低聲でおたのみ利子（はゝとした様子何も知てやしないは――國際映畫見てたんだわ。

中繼ぬ（何げなく）利子の側へよつて低聲でおたのみ利子（はゝとした様子何も知てやしないは――國際映畫見てたんだわ。

ばかりに打ってかゝって来ました。

尻むけられぬ様に氣を揃へ巳が長が吉▲六白　禍は遠くにあらず近く手元に在

例の助六でした。

「旦那さま、お食事の支度がとゝのひました故、どうぞこちらへお越し下さいまし」

彦九郎が座につくのをまいて

「長らく野にひきこもり申しました。勤王の思ひは人に負けぬ心、現時の世態にあきたらぬものでござる」

「おゝ、お見上げ申したお言葉」彦九郎は盃をとりあげて

「失禮ぢやが、盃参らせう　辱ぇ」かうして二人はまたゝく間に舊知の如きしたしさに落入ってしまひました

語るところは、一として勤王正義に依らないものはなく、町人それの助兵衛、助六の親子もいつしかその熱情に魅せられて了ひました。

「時に貴殿の同志と申すものはムるかな」互ひの身の上にまで話が来たとき彦九郎はかういってたづねました。

「それは、とんだ手數をかけて相済まぬ噺」

「いゝね、とんだことがございます」助六は恐縮さに頭をかいて

「ときに旦那さま、最前お話申し上げました唐崎さまも、御一座していかゞくトうにお願ひいたしましたが、お許し下さいますでせうか」

「たゝ、かまひませんとも」

「有りがたうございます」

助六は叮嚀に辞儀をして「では、御案内申し上げます。どうぞこちらへお越し下さいませ」かういってみちびく助六に案内せられたのは、十二疊敷程の座敷でした

朱塗の膳に、山海の珍味食膳をもつて、一人の客、それが唐崎氏と思はるゝ武士が、すでに席について居りました

「拙者こそ播州大久保の住人、唐崎常陸介名は正俊御貴殿の御高名はつとに存じより申した。以後よろしく、御指導下されい」

「御挨拶痛みいる」二人の間には一沫の共通した思ひが流れました

「承れば、勤王の御志あつさ方なさうな」

「如何にも」常陸介はたひかぶせるように、大きく頷

「如何にも　拙者志を同じ　うするものにも氣骨あるも　地は同じ心のものときけばのゝ歓ぶ色ありありとうかしく、叮嚀に礼をし

「ほゝお、さようか、しか　の変りのもの」

「たゝ如何にも承知いたし

石城地方は日毎に失業者の洪水

全く救ふ途なく當局も手を餘す

石城郡地方は炭礦勞働者を他の他の失職者相次いで起り出稼ぎの目的で

東京に行くものが極

めて多いが失業者は何處にも洪水の如くで殊に中央に於ける失業者の數は一日〜と激增する有樣であり内務省當局に於ては中央に憧れて地方を出つるものゝ防止に全力を擧げて居つたが失業者はゆ央に出れば職業にありつけるものと思ひ續々家出する者があり地方を飛出すものゝ中一番多のは自由勞働者並に工場勞働者なので縣保安課工場係に對して自由勞働者並に工場勞働者の中央入阻止に關して通牒があつたので縣保安課では工場課係に對してそれ〜日割を定めた上係官が出張して工場從業員に對して東京地方に於ける失業者增加の狀態並に失業者の多き場合であるから失職せぬやうに注意をなす筈である、尙ほ一般勞働者に對しても前記同樣にビラ等を配布して地方で何とか就職するやう宣傳に努める事になつた

品川白煉瓦 工賃値下

昨二十日に通告

石城郡湯本町品川白煉瓦株式會社では作業員百三十名に對し來る廿六日から總稼高賃金の二割の値下げを斷行することに決定する二十日從業員一般に對し之れが通告をなした

久之濱側出縣して四倉角網に苦情

山田縣議が力を入れ問題は益々復雜

問題の四倉魚業組合ノ魚網漁業に對し隣接せる久之濱漁業組合では爲に距離一千九百間を突破してゐること再三請可取消し陳情をなしたが二十日山田縣議がまた〜出縣し金森内務部長並に商工水産課を訪問し縣は角網なりと主張してゐるが實際調査したところによると角網にあらずして大敷網漁業の實をあげて居り特に同一種類の漁業に僅か久之濱四倉間距離間二千五百間にすぎざるため南方上り來ゆる漁類は悉く四倉の網によりつ獲られる結果久之濱大敷網は權利を放棄せねばならぬ如き苦境に陥いつてゐる縣は既報の如き權擁護の意味からも四倉漁業組合に對して適當處置を講ぜられたい

磐崎の火事

けふ原因不明

石城郡磐崎村大字上湯長屋農猪狩安平方裏手物置内から二十一日午前五時頃突如發火したのを家人が發見大騒ぎとなり鎭火に努めた結果住家非住家二棟を燒失し四六時頃鎭火したが發火原因其の他一切不明平署で目下取調中

安物許が賣れて看板の高級品

朝日が最高七萬圓 平町の煙草賣上

平町煙草元賣捌所に於ける本年一月より四月迄の賣上狀態を聞くと打ち續く財界不況の爲め比較的多價品ゴールデンバット、ナデシコ等が最高を占め朝日四百九拾八圓三拾錢バット四百九拾六萬五千千八百二十三圓六十五錢、五夕ゝナデシコもほとんど同額であり次が聊島、はぎエアーシップ「國家、不二口付のナイル、オリエントアルマ、敷の水府薩摩、禪壽草は死ゴ賣れない漁して安き煙草ほど賣れが良く價の安に陳列に過ぎなしを見ても不景氣が物語つてゐる

馬匹健診日割

石城郡產馬組合の馬匹側康診斷當九視察をなした十九日は

日割は左の如く決定した

▲十八日田人村南大平▲十九日荷路夫村▲二十日田人村下倉田▲二十一日山田村▲二十七、八、九日川前村

小名濱大敷網 投網 けふから投網

小名濱町大敷網は去月中より準備を進めてゐたが愈々昨二十日投網を決行したが豐濱濱の大敷網も今月十日より投網し爲めに石城七濱は活況を呈してゐる

石城警視察

太田警察課長來郡

太田警察課長は久の濱漁業組合支所警官所長と共に九、二十の兩日石城郡への日に於ては傍下運動等をわざ〜廻るものはなく曾

潮來に遊んで (一)

大島金一郎

旅行時代社の遊觀客〜、とて、潮來の醫師大久保清衛氏のところへ厄介になつた所が、古い潮來節をよく知つてゐる老婆があるから一寸會つて見たらどうだといふ話なので、渡りに舟と喜んでその人の宅をたづねた。

その人はもう七十いくつかの婆さん、年はとつてゐるがまだ壯者をしのぐ健康の持主であつて、名は長崎のふさ、潮來の濱町に六代續いた『魚林』といふ料理屋の女將であつたが、現在は樂隱居といつたやうな身分で閑日月をたくつてゐる。

初對面の挨拶をかはした瞬間、なか〜元氣な婆さんだなゝといふ感じと、女とはよりはむしろ男らしい何かゞ眉宇の間にひらめいてゐるのを感じた。

そこへ、老婆の愛弟子（といつても、そう年は四十）の潮來の名妓といはれる小房クンもやつて來たのでいろんな話しをきゝ

老婆は斷片的にそれからそれへと話をつゞける

老婆は潮來の妓樓の一人變都合のよい場面が出したわけである。

いた『魚林』といふ料理屋の女將であつたが、現在は樂隱居といつたやうな身分で

まだ六つかの子供であつたから、この婆さんなかの婆さんに、年はとつてゐるがまだ壯者をしのぐ健康の持主であつて、名は長崎のふさ、潮來の濱町に六代續いた『魚林』といふ料理屋の女將であつたが、現在は樂隱居といつたやうな身分で

いつか濱町のきの土橋の上で、船頭と泥酔して、揮りかゝつた婆さんにふざけた所がキッと一聲かけたかとたもふと當身をくらはしたので、船頭は物も言はずきこんだが知らぬが、浪士をかくまつたことが知れ、老婆の父は高手小手にいましめられ、とう〜引立てられてしまつた。そして、とう〜獄中で舌をかみ切つて死んだといふことである。

語をつゞけてゆくうちに婆さんの眼には露がやどつてがびるのを恐れて、炭俵

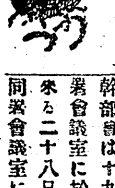
藤田小四郎はじめ、十數人水戸浪士がどうも身邊が危險なので潮來の城つそりと魚林の二階へかくれることになつた。しかし、二階にかくかたといつても肉の歎に堪へられない浪士の連中は夜ひそかに眼を盜んで、ふかんに眼鏡をふりまわしては自らなぐさめてゐたとさうな。

そこで、子供心にその有樣をながめ、撃劍の眞似をはじめてその稽鍛錬まで修得したので、三ヶ月になつて魚林の帳場にすはつた時は、酔客が亂暴をすると腕

その人はもう七十いくつかの婆さん、年はとつてゐるがまだ壯者をしのぐ健康の持主であつて、名は長崎のふさ、潮來の濱町に六代續いた『魚林』といふ料理屋の女將であつたが、現在は樂隱居といつたやうな身分で

その人はもう七十いくつかの婆さん、年はとつてゐるがまだ壯者をしのぐ健康の持主であつて、名は長崎のふさ、潮來の濱町に六代續いた『魚林』といふ料理屋の女將であつたが、現在は樂隱居といつたやうな身分で

その人はもう七十いくつかの婆さん、年はとつてゐるがまだ壯者をしのぐ健康の持主であつて、名は長崎のふさ、潮來の濱町に六代續いた『魚林』といふ料理屋の女將であつたが、現在は樂隱居といつたやうな身分で



待つた無しで電燈料を督促

未納は直ちに消燈 平の電燈料整理

平町にける電燈料値下げ問題は町會の區長會にまで持ち出されても何處かに足並みそろはずやもすると無關心を欠くやうな狀態で今日に於ては値下運動等とうの昔に過ぎなしの狀態であるものはなく曾

地租附加 二七、一五二

平信用の總代

平町信用組合平蔦氏金庫では十九日午後一時より總代の補缺選擧を行つたが高橋龜松氏が當選した

戸籍謄本を見て吃驚

母から探査願

勿來町大日本炭礦小野春吉姉はま（三七）は先月中上京したが就職口がないので歸郷すべく常磐線下り列車に乗つた處土浦町七軒町渡邊善三と懇意になり厄介になつたが工女になつて働くから戸籍謄本を送つてくれと春吉に手紙を出したがはまに無筆である上工女になるのに謄本の必要はないが

特別地稅 二、八八八

營業收益 三、八〇九

所得稅同 四、七〇二

計 三八、五五一

平自動車協會總會

廿八日に開く

平警察署内自動車協會平支部幹部會は十九日午後四時平署會議室に於て開催總會を來る二十八日午後一時から同署會議室に於て開くこと

無籍者の辛さに職の無い少年

平署で保護さる

平驛待合室を十八日深夜徘徊してゐる少年の擧動が不審なので平署員が取調べたが同時に關係地元氏も町の委員と共に猛烈な運動を開始する由である

自動車が馬車に衝突

石城綿赤井村日渡し遠藤利惣一は東京より去る十六日新しい乘合自動車を購入し運轉手遠藤美彌（三一）に運轉させ自宅運搬の途中同日午後一時ころ内郷村大字綴國道にさしかゝつた際前方から來た同郡湯本町三國二八七管野忠次郎の馭する荷馬車馬が自動車の爆音に驚き

改修陳情

大工鐵道踏切 町議等上京す

平町大工町鐵道踏切の改修問題は平町會の決議に基き委員が熱心に奔走盡力した結果衆議院の請願委員會をパスしたので改修問題は出て有望となつて來たので平町の委員佐々木、吉田、櫻井の三町議は近く上京して

恩を仇で返し金主を薪で毆る

憤って平署に告訴

石城郡江名町大字江名北町中田龜吉（三三）は二十日午後五時頃學間神大字沼之内の井勝利（三六）方に貸金の催促に出掛勝利と一二押問答をしたが突然勝利は角薪で龜吉の胸部を毆打全治四週間の重傷を負はせたので二

自動車協會

平支部總會

廿八日平署で

縣自動車協會平支部では十九日午後一時半から平署會議室に幹部會を開催し種々打合せをなしたが結果同支部總會は二十八日午後一時より同署會議室に開くことに決定した

地租法案が通過すれば

石城郡下で七八萬圓の減稅

今冬の通常議會には稅制整理の一方法として地租法案を提出するに決定したが右に就き平稅務署調査によると石城郡現行の土地反別は約五萬五百町歩で一反平均廿四圓卅錢に當る賃貸價格は現在地價の七割程度に引下げられてゐる故に石城郡の農民は地價の引下と課稅率の減によつて實際負擔高は現在の六割位に輕減される見込で地租全體では七八萬錢の減稅となるため一日も早く實現を熱望してゐる

校長や教員の惡事を密告

馘首され不滿を抱き

縣教育界に最近頻々として小學校長及男教員の醜惡な數々を綴つた投書があるので縣ではその事實及密告者につき内偵をあつた處右

一、運賃統一ノ件
一、優良從業員表彰の件
一、運轉手受檢中改正要點
一、運轉手受檢中改正要點
一、臨時運轉に關する件
△注意事項
一、停留所以外には停車せざる事
一、客引行爲をなさぬ事
一、乘車券發行の件

職の無い少年

平署で保護さる

無籍者の辛さに

磐新塔

在郷軍人分會長といふ職は我が國内として非常に重大なもの

短期特別大興行 愈々明日初日

浪曲女流横綱 前田節子孃
浪曲女流花形 前田八重子孃
午後五時花火合圖開場
平町 聚樂館 二於

セイコー時計の値下斷行 景品は特賣
金解禁と…國産品の愛用…
景品總額金拾貳萬圓
景品内譯
一等 蓄音器壹台 三百六十本
二等 置時計壹ケ 五百本
三等 置時計壹ケ 一千本
四等 目覺時計壹ケ 五千本
五等 特製ナイフ 全部へ
時計は信用ある精工舍製品を
平 三 特約店 大谷時計病院
電話十九番

宏壯華麗至藝の迫力
松竹巨作 ◆週間朝日誌上掲載
原作……池津宗次郎 撮影……桑原昂
脚色……東路國彦 監督……島津保次郎
日佛文 龍田靜山、奈良養、新井淳、若宮信子
物語り……は南國の港から日本への航海途上に起る數奇を極めしものパリーのオペラ劇場、市外、デパート、マルセーユ港等の大セットにまづ驚かれませふ
ユニヴァーサル・カール・レムレエ提共
原作……小カール・レムレエ氏
主演……ジョーヂ・ルイズ氏
No.4 大學生活 全
第五篇 ボロ試合（原名運動一の勇氣）
第六篇 人自動お競爭（原名野外黄昏競走）
日活特約◆御存知迷犬 原作……三上於兎吉 監督……高橋壯康
悲劇 傳奇 鴛鴦呪文 全
遠山藤（米太陸に放賣され）
小夜小春（歸朝入籍）第一回上演
助演……市川小文治 楠英二郎、瀧川銀潮、淺香新八郎
二十二日寫眞替リ
近日上映（大忠臣藏 全十卷）
平館

内科診療
消化器病科 呼吸器科
小兒内科 一般内科
人院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊内科醫院
電話一六一番